仙台に初めて誕生したプラネタリウム

～丸光デパートの屋上に現れた「星の殿堂」～

仙台で最初にプラネタリウムが誕生した「丸光デパート」

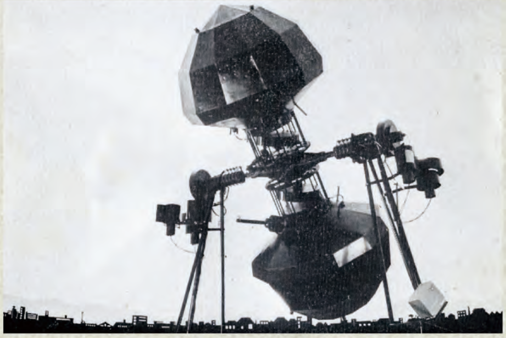
仙台駅前にかつてあった「丸光デパート」。その屋上に設置されたプラネタリウムが、仙台で最初に誕生したプラネタリウムです。
直径10メートルの丸いドームには約2000個の星が映し出され、星空を再現できる画期的な「星の殿堂」として多くの家族連れで賑わいました。

プラネタリウムを「教育」に活かすことを目指して

昭和35年(1960年)7月15日からの一般公開に先立ち、試写会が行われました。試写会は13日と14日の2日間、市内に勤める現役の学校教師たちが招待されました。当時から、プラネタリウムを娯楽だけにとどまらず理科の学習教材として活用しようとしていたのです。
丸光デパートのプラネタリウムは市外からも修学旅行生が多く訪れるなど、次第に新たな仙台の観光名所として広く親しまれるようになりました。

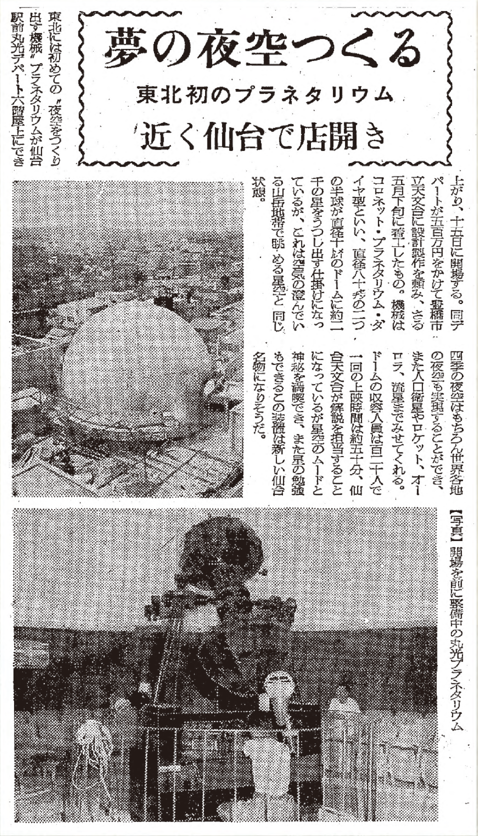
プラネタリウムで語られた解説

プラネタリウムの星空解説を担当したのは、当時の仙台市天文台の職員でした。
当時の投映の様子を記した台本から、今現在のプラネタリウムと同じように季節ごとに移り変わる星座や、星座にまつわる神話を解説していたことが分かります。



協力：安藤享平氏（郡山市ふれあい科学館）

丸光デパートに導入されたものと同型で「コロネット・プラネタリウム・ダイヤ型」や「金子式ダイヤ型プラネタリウム」と呼ばれる。設計製作は、豊橋向山天文台の金子功氏。



夢の夜空つくる

東北初のプラネタリウム

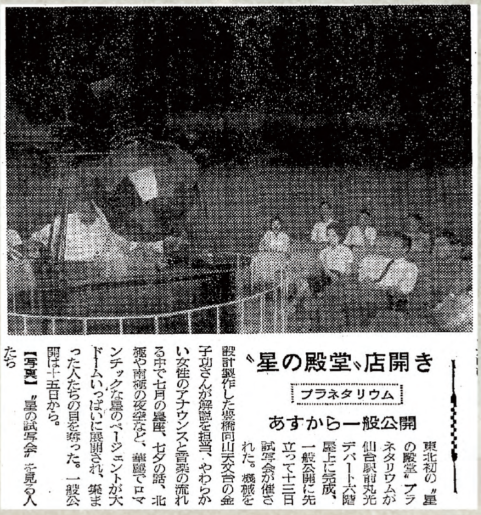
近く仙台で店開き

東北には初めての〝夜空をつくり出す機械〟プラネタリウムが仙台駅前丸光デパート六階屋上にでき上がり、十五日に開場する。同デパートが五百万円をかけて豊橋市立天文台に設計製作を頼み、さる五月下旬に着工したもの。機械はコロネット・プラネタリウム・ダイヤ型といい、直径八十秒の二つの半球が直径十メートルのドームに約二千の星をうつし出す仕掛けになっているが、これは空気の澄んでいる山岳地帯で眺める星空と同じ状態。

四季の夜空はもちろん世界各地の夜空も実現することができ、また人口衛星やロケット、オーロラ、流星までみせてくれる。ドームの収容人員は百二十人で一回の上映時間は約五十分、仙台天文台が解説を担当することになっているが星空のムードと神秘を満喫でき、また星の勉強もできるこの装置は新しい仙台名物になりそうだ。

【写真】開場を前に整備中の丸光プラネタリウム

河北新報社提供　昭和35年7月8日掲載記事



〝星の殿堂〟店開き

プラネタリウム

あすから一般公開

東北初の〝星の殿堂〟プラネタリウムが仙台駅前丸光デパート六階屋上に完成、一般公開に先立って十三日試写会が催された。機械を設計製作した豊橋向山天文台の金子功さんが解説を担当、やわらかい女性のアナウンスと音楽の流れる中で七月の星座、七夕の話、北極や南極の夜空など、華麗でロマンチックな星のページェントが大ドームいっぱいに展開され、集まった人たちの目を瞠った。一般公開は十五日から。

【写真】〝星の試写会〟を見る人たち

河北新報社提供　昭和35年7月14日掲載記事